

## 腸内環境制御による慢性疾患への治療介入に関する研究

## ① 共同研究・産学連携への意気込み

准教授  
秋岡 親司

我々は、自閉症や乾癬、関節炎などの日本人慢性炎症性疾患患者のマイクロバイーム解析を通じて、疾患病態を明らかにすると共に、腸内環境制御による新たな治療戦略を確立したいと思っています。

## ② 想定される連携先・移転先

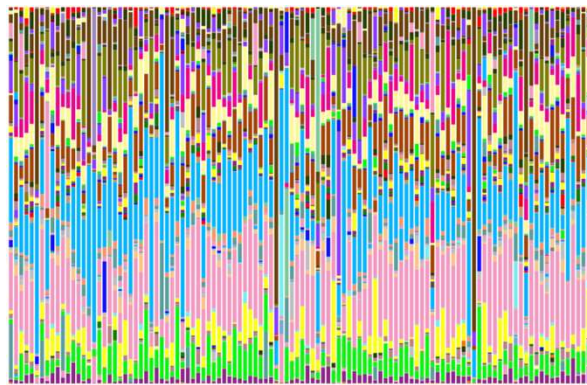
機能性食品のみならず、腸管粘膜から体内に吸収されること無く腸内環境を変える化合物を開発されている施設との共同研究・連携を目指します。

## キーワード

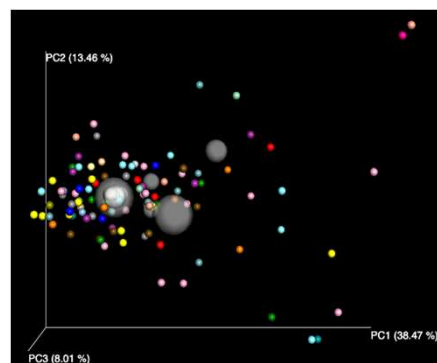
メタゲノム解析、腸内環境制御、慢性炎症性疾患、疾患モデル動物、介入試験

## 研究内容

欧米人と同様に、日本人小児および成人においても、自閉症や乾癬、関節炎患者は、偏りのあるヒト腸内細菌叢を示すことを、次世代シーケンサーを使ったメタゲノム解析等で明らかにしました。またそれらの関わる特異な代謝産物と代謝経路が、エピジェネティックな様式で、病態に関与する可能性が示唆されました。これら腸内環境を変えるあるいは代謝経路に関わる低分子化合物を、疾患制御の候補物質として探索していきたいと思います。疾患モデル動物、さらには介入研究への発展を希望しています。



慢性疾患患者糞便のメタゲノム解析結果



自閉症患者の偏移した腸内細菌叢